

銅(電気銅・電線・伸銅品)の需給動向

鉱山

平成15暦年電気銅需給実績

(単位:千トン)

暦年	13年 実績	14年 実績	15年			前年度比 %
			上期	下期	合計	
期初在庫	103.7	123.2	93.5	101.7	93.5	24.1
生産	1,425.7	1,401.1	709.5	720.9	1,430.4	2.1
国内鉱出	0.4	0.6	0.5	1.0	1.5	150.0
海外鉱出	1,286.8	1,210.5	623.8	626.5	1,250.3	3.3
その他出	138.5	190.0	85.2	93.4	178.6	6.0
輸入	156.1	114.1	41.1	37.7	78.8	30.9
供給計	1,685.5	1,638.4	844.1	860.3	1,602.7	52.9
消費(報告値)	1,099.9	1,162.9	575.3	583.0	1,158.3	0.4
(見掛値)	1,146.3	1,167.0	603.5	598.9	1,202.4	3.0
電線	706.4	742.1	350.5	363.2	713.7	3.8
伸銅品	371.8	388.3	217.2	200.4	417.6	7.5
その他	21.7	32.5	7.6	19.4	27.0	16.9
輸出	416.0	377.9	138.9	150.9	289.8	23.3
需要計	1,515.9	1,540.8	714.2	733.9	1,448.1	6.0
期末在庫	123.2	93.5	101.7	110.5	110.5	18.2
過欠補正	46.4	4.1	28.2	15.9	44.1	

(出典)経済産業省

平成十五年の我が国の電気銅生産は前年比二・一%増の百四十三万トンと三年ぶりに増加に転じ、平成十一年に次ぐ史上第二位を記録した。電気銅生産はここ数年、国際銅市況の低迷に伴う原料精鉱不足を背景に減産気味に推移していたが、国内需要が伸銅品を中心に持ち直したことに加え、スクラップ不足に伴い電気銅の代替需要が増加したことから、下期にかけて増産体制に移行した。消費は報告値が〇・四%減の百五十八万八千トン、過欠補正を加味した見掛値は三・〇%増の百二十万一千トンと二年連続で増加し、平成十一年以来の水準まで回復した。

平成十五年の我が国の経済は厳しい雇用・所得環境が続き、不良債権・過剰債務問題も依然解消されないながらも、イラク戦争の終結以降世界経済が回復軌道を進む中を輸出主導で生産が増加し、企業収益が改善し設備投資も増加に転じるなど、緩やかながらも持ち直しに向かった。こうした経済環境下、銅の主要な需要産業のうち建設業は引き続き停滞を余儀なくされたが、自動車生産は輸出需要を牽引役に好調を維持し、電気機械も一ト関連需要を中心に急回復した。

電気銅の用途別消費報告値ベースは、電線向けが三八・八%減の七十四万四千トンと再び減少したが、伸銅品向けはスクラップ不足に伴う代替需要も加わって七・五%増の四十二万八千トンと二年連続で増加、三年ぶりに四十七万トン台を回復した。

輸入は国内生産が消費を上回ったことから三〇・九%減の七十九万トンと八年連続で減少し、昭和四十年以来の低水準にとどまった。輸出も内需優先の影響で二・三%減の二十九万トンと二年連続で減少した。

この結果、在庫は九万四千トンから十三万五千トンに増加したが在庫/消費比率は四・八週間分と適正水準を維持した。

日本鉱業協会 〇三(三五〇)七四四五

電線

平成15暦年銅電線・ケーブル出荷実績

(単位:千トン)

部門	暦年	13年 実績	14年 実績	15年			前年比 %
				上期	下期	計	
通信	20.1	19.7	10.3	9.3	19.7	0.4	
電力	89.4	79.2	38.1	34.3	72.4	8.6	
電気機械	208.5	195.1	97.5	97.3	194.8	0.1	
自動車	68.8	71.4	36.7	38.6	75.4	5.6	
建設・電販	365.0	347.5	164.3	189.6	353.9	1.8	
その他内需	62.7	61.5	25.5	28.8	54.2	11.8	
内需計	814.4	774.4	372.5	397.9	770.4	0.5	
輸出	39.6	39.2	16.5	14.7	31.2	20.3	
合計	854.0	813.6	389.0	412.6	801.6	1.5	

(注)前年比は数量を丸める前の原伸比率

(出典)電線工業会統計

平成十五年の銅電線ケーブル需要は、八十万二千トンと前年比二・五%減、減少幅は小さいものの三年連続して前年を下回った。当初八十万トン割れが予測されていたが、なんと踏みとどまった。しかし最高時からすると三分の一の水準である。

通信部門は、NTTの設備投資圧縮と光化の進展で長期減少傾向が続いてきたが、ほぼ底打ちとみられ、前年比微減にとどまった。

電力部門は、電力需要が伸び悩み傾向で電力供給力に余裕があることや、自由化等により電力各社の電源・流通部門への投資抑制が年々減少傾向にある。また大型送電線案件もないことから電線需要は引き続き減少している。

電気機械部門は、電表品向けが好調を維持するなか一ト関連の立ち直りにより電子通信向けがやや持ち直し、海外シフトの影響を受ける家電向けと重電向けが低調ではあったが前年比微減にとどまった。

自動車部門は、自動車生産の好調を反映し、また使用原単位も現時点では減少傾向が見られないことから、電線需要量は三年連続して前年比プラスと好調であった。

建設・電販部門は、民間設備投資が好調に推移し、引き続き小規模プロジェクト件数もあつたことから電線需要は徐々に上向き傾向にあり、前年比もプラスに転じた。

その他内需部門も、民間企業設備投資動向と関連が深い部門であるが、近年建設・電販部門にシフトする傾向にあり減少が続いている。

輸出部門は、東南アジアにおいては現地メーカーの台頭、海外勢との競争激化により状況は厳しく、他地区においても価格競争が激しく大幅な減少となった。

(社)日本電線工業会 〇三(三五四)六〇三三

伸銅品

平成15暦年伸銅品出荷実績

(単位:千トン)

部門	暦年	13年 計	14年 計	15年			前年比 %
				上期	下期	計	
金属製品	144.2	135.4	71.7	68.7	140.4	3.7	
電気機械	243.0	258.7	135.7	134.7	270.4	4.5	
輸送機械	65.2	66.5	33.3	33.0	66.3	0.3	
精密機械	14.1	13.5	6.6	6.2	12.8	4.9	
一般機械	155.7	137.4	74.8	65.1	139.9	1.8	
その他製造	70.9	64.9	33.1	33.2	66.3	2.0	
建設業	30.0	26.6	12.2	13.4	25.6	4.1	
その他内需	96.0	94.9	49.4	50.5	99.9	5.3	
内需計	819.1	797.9	416.8	404.8	821.6	3.0	
輸出	164.9	169.6	91.5	83.5	175.0	3.2	
合計	984.0	967.5	508.3	488.3	996.6	3.0	

(注)前年比は数量を丸める前の原伸比率

(出典)経済産業省統計

平成十五年の伸銅品需要は、九十九万七千トンで前年比三・〇%増、三年連続の百万トン割れであるが下げ止まりの様相は見せている。内需・輸出向けを含めて十一年以来三年振りの水準ではあるが、十一年との格差は大きい。

金属製品は日用品や水栓金具などが前年並みの低水準にとどまったものの、ガス機器が十一年に次ぐ過去第二位の水準まで回復し、微増に転じた。

電気機械は半導体が秋口まで回復傾向を示さず、年末に向かつて動きを見せたものの前年を下回る水準であったが、コネクタが特に自動車向けの堅調推移と、携帯電話やデジタル家電などに支えられて底堅く推移し、また配電制御も最悪期を脱するなど、そこそこの水準を維持した。

輸送機械は自動車生産の横ばい基調を映して前年並みの水準に終わった。端子の堅調の影響は見られなかった。

精密機械は依然として市場縮小基調を脱せず、昭和六十年以降の現行統計での最低水準に落ち込んだ。

一般機械は冷凍機応用機器が僅かながら前年をさらに割り込み、昭和六十二年以来の低水準となつたが、バルブ・ボックなどが若干の回復を示し、前年比微増も水準は厳しいます。

その他製造業は電線被覆は低水準も、コイルなども、イナスには至らず。

建設業は市場縮小傾向に歯止めがかからず、昭和六十年以降の最低水準、ピククの約四割と低迷した。

その他、市況品は年末の原料価格上昇にも影響され、若干持ち直した。

このため内需計は銅条や黄銅棒の底堅い動きと、銅管や黄銅条も僅かな増加となり、ワースト記録となつた前年よりは若干の底上げとなった。

輸出は銅条や黄銅線の回復が、銅管や黄銅板条の低迷を下支えた。

日本伸銅協会 〇三(三八三)八八〇一